

さいくうあと通信

発行 明和町 齋宮跡・文化観光課
 (明和町大字馬之上 945 番地)
 電話 : 0596-52-7126 FAX : 0596-52-7133
 E-mail : saikuuato@town.mie-meiwa.lg.jp

人々の交差点、歴史の交差点、「齋宮城跡」

齋宮城は現在の竹神社にあったと伝わる城です。本号では齋宮城の場所についてさまざまな角度から迫ってみます。

古文書によると、「弘治元年(1555)に野呂三郎が徳政を求めて城を築いて立て籠もったが、国司北畠氏によって討伐された」と記されています。また、『明和町史』では、野呂三郎が立て籠もった城を齋宮城だとしています。ただし、古文書からは竹神社に齋宮城があったとは特定できません。

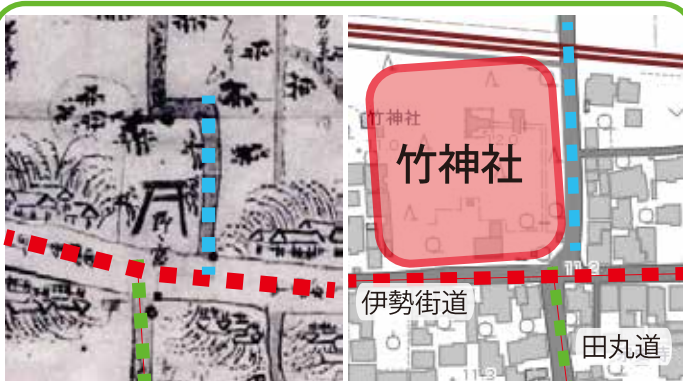
では、竹神社の中に城の痕跡は残されていないのでしょうか。境内の西側をよく観察すると、土を盛った高まりが南北にあります。もしかすると、この高まりが城の土塁どるいかもしれません。さて、一部の解説で境内の石垣を齋宮城と説明していますが、齋宮城に関するものではありません。この頃の城は田丸城や松坂城などのような石垣はなく、土塁や空堀のみでした。現時点で調べられる範囲においては、齋宮城が竹神社にあったと断定できません。では、なぜ「竹神社=齋宮城」説ができたのか、神社の場所に焦点を当てて考えてみましょう。



齋宮城があったとされる竹神社



竹神社の境内西側に残る土塁状の痕跡



江戸時代の絵図に描かれた現在の竹神社付近と現在の地図
 東西に伊勢街道が通り、鳥居の南側で「田丸道」と合流しています。
 当時の道路の形状が現在でも残っています。



江戸時代の絵図に描かれた現在の竹神社付近

神社は三本の道が合流する場所です。その一つ、伊勢街道は伊勢神宮への重要な道です。伊勢街道から分岐する南のルートは、「田丸道」と呼ばれ田丸城へ至ります。また、古文書によれば、中世の齋宮付近には関所が二か所置かれていたようです。関所の位置について、『明和町史齋宮編』では、竹神社地点に関所があった可能性を指摘しています。このことから、野呂三郎らは関所の施設を城として一時的に利用したのかもしれませんが。また、江戸時代の絵図では土塁を齋宮の築地と紹介しており、齋宮跡に関する可能性も残されます。

齋宮城の特定はできませんが、神社の場所が交通上の要地だったことは間違いありません。竹神社はかつて齋宮の中核である内院があったとされます。この場所は、齋宮がなくなっても形を変え何度も歴史上に登場する重要な地なのです。



身近な歴史 **伊勢の窯元 有爾**

かまもと うに

うにごう

現在の明星や有爾中、菘村は、奈良時代には有爾郷という名前と呼ばれていました。この「うに」は土器を表す「はに」がなまったものと考えられており、土器作りを専門に行うひとたちが住んでいたと考えられています。

これらの地域では、昔から伊勢神宮に土器を奉納していました。伊勢神宮では多くの儀式が行われており、それには、食べ物や飲み物を入れる御器（神聖な土器）が必要不可欠でした。また、それに使われる土器は1度使うと捨ててしまうため、大量の土器が必要となり、ある古文書には1年間に21,815個を奉納したと書かれています。その大量の土器を奉納したのが、有爾郷のひとたちでした。

発掘調査の成果から、約1300年前の奈良時代には伊勢神宮に土器を奉納していたと考えられますので、かなり古くから土器を奉納していたようです。明星周辺の発掘調査では、土器を焼いたと考えられる奈良時代の窯が数多く見つかり、全国的にもその数はトップクラスです。土器の製作手順がわかる珍しい例として、水池土器製作遺跡が国の史跡に指定されています。

また、有爾郷のひとたちは、奉納する土器とは別に一般に販売する土器も作っており、伊勢神宮の周辺で行われていた市で販売していました。売られた土器は、県内はもとより、東海地方を中心に広く運ばれ、遠くは千葉県でも見つかり、まさに窯元といえるような一大生産地でした。

これらの土器を作っていたひとたちは、その後も土器を作り続け、太平洋戦争ごろまではそれぞれの家で作っていたようです。それらは「ほうろく」と呼ばれ、現在のフライパンのようなものでした。

現在では販売用の土器は作っていませんが、菘村には今も神宮土器調整所があり、約1300年前からの技術を受け継いで土器が作られ、伊勢神宮に奉納され続けています。



水池土器製作遺跡から出土した土器



発掘調査で見つかった窯跡



公園整備された水池土器製作遺跡

<展示会のお知らせ>

「発掘調査でわかった金剛坂遺跡 一人が住み続けるまち」

期間：平成27年2月3日（火）～2月26日（木）（月曜日：休館）

時間：平日：9:30～19:00 土日祝：9:30～17:30

場所：ふるさと会館2階

☆展示解説日：2月8日（日） 10:00～11:00 職員が展示を直接解説いたします。



金剛坂遺跡出土
町指定有形文化財「環状壺形土器」

